

2004 年度夏学期 国際関係論試験問題

古城佳子教員

平成 16 年 7 月 27 日

70 分

< 注意点 >

1. 教科書・参考書・ノート類の披見は不可です。
2. 解答用紙は 1 枚（両面）です。
3. 選択した問題の番号を必ず冒頭に明記すること。（例）A-2、A-4、B-2 など。

A 次の中から 3 つを選択し、その概念（あるいは考え方）を説明した上で、それらが現代の国際関係を説明する上で有用な点と有用でない点を論じなさい。（30 点）

1. 勢力均衡
2. 国益
3. 民主的平和論
4. 新機能主義
5. 敏感性と脆弱性（相互依存論における）
6. 従属論
7. 囚人のジレンマ
8. 共有地の悲劇

B 次の 3 つうち 1 つを選択して、講義、参考文献をふまえて解答しなさい。（60 点）

1. 民族自決（self-determination）が国際社会において原則となった経緯を説明し、現代の国際関係において民族自決の原則が提示する問題点について論じなさい。
2. 主権国家システムにおいて戦争をなくすことは不可能である、という主張の考え方を説明し、その妥当性について、あなたの考えを論じなさい。
3. 世界が経済的相互依存関係を高めると政治的な協調が促進される、という主張の考え方を説明し、その妥当性について、あなたの考えを論じなさい。

C この講義に関連してあなたが読んだ文献（久米他『政治学』は除く）について、あなたが関心を持った点について、講義との関わりにおいて述べなさい（著者名、文献名を記すこと）。読んだ文献がない場合には、講義の内容で関心を持った点についてその理由を述べなさい。（10 点）